

「5名の兄姉を天に送って」(2023.1.15)

「天のみ民も地にある者も 父・子・聖霊なる神を讃えよ とこしえまでも」(讃美歌 21-29)

2023年が明けて4日、K兄が召された。1月の雪の季節ではあったが、本人の希望通り、これまで長老を務めたこの教会で告別式が厳かに営まれた。教会員はじめ多くの方の協力があったが、特に駐車場や坂道の除雪・排雪を請け負ってくれた遠藤建設の働きを覚えたい。こうして、K兄はその葬送もって、これまで「右の御手をもって支えてこられた」恵みの主をあかしでき、喜んでいることと思う。



振り返ると、3月26日にS兄、6月27日にN兄、9月3日にM兄、12月8日にS姉が召された。そして、K兄である。礼拝堂のあの席、この席、そこがお気に入りだったのか、礼拝堂を見渡すと、そこに座っていた姿を思い出す。ふと何か、自分の体のあちこちが崩れ落ちていくように感じる。でも、思い起こしたい。毎週^{x2}、天のみ民と共に上掲の頌栄 29番で主なる神を讃えることができるのだ！そして、天上の席が増え、地上の席が減っても、私たちの主はその空いた席にまた誰かを導いてくださるのだ。

最期の仕事を立派に成し遂げた兄姉の、その証の声を、地上の私たち教会はしっかり聞き取って、いよいよ宣教に励みたい。聖書も「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。」(Ⅱテモテ 4:2)と勧めている。コロナ禍、イブ礼拝はメール受付で50名に入場制限しながらも、結果的には希望者を全員受け入れることができた。次の宣教のチャンスは「かまくら」である。地域に開かれた教会形成を目指すなら、この行事を活かさないと手はない。1月長老会報告にあるように、今回もゲストを招き、教会ミニかまくら演奏会を実施することになった。幸い相応しいゲストを招くことができた。バイオリニスト・橋本紀夫氏と彼が属する「アンサンブル・リベラ」である。4~5名の管弦楽のグループで、主に湯沢市を中心に活動されているとのことである。

5名の天に召された兄姉の空いた席。そこに主は誰を招いてくださるのだろうか？期待しながら、できることを愚直にコツコツ取り組みましょう。